

はじめに ～本書が生まれた背景～



制度や政策は社会のニーズや価値観に基づき、人々の意見、文化、経済的状況、歴史的背景などが影響を与え合って形成され、運用される。そのため、社会の人々と制度・政策の関係は非常に複雑で、かつ相互に影響し合っている。

それでは、社会の人々は、制度や政策にどのように関与しているだろうか。2025年春、日本人の主食である米の価格が高騰した。この状況を、本書を手にとったあなたは、どのように受け止めただろうか。米を生産する農家、米を消費する人々の行動、米の流通に対する課題、そして政府が行った備蓄米の放出。いずれも、制度や政策と密接な関連がある。こうした状況において、自らの生活や権利を守るために、住民は市民運動やロビー活動、選挙などを通じて声をあげ、制度の変更を求めることで、自分たちの意見を反映させようとする。

重要なのは制度や政策が制定されたあと、それがいかに実施されるかである。適切に実施されれば生活の質を向上させるが、不適切な実施や管理不足は人々に負の影響を与えることもある。

政策が施行されたあとは、その政策に対する人々の満足度や不満といった反応が、次の政策の見直しや改善に活かされるべき重要な情報となる。このフィードバックは民主的なプロセスにおいてとくに重要であり、政策の持続的な改善につながるため、社会の人々の参画が欠かせない。はたして、私たちはこの改善に十分参画できているだろうか。

制度や政策は、特定の集団にとって有利にも不利にもはたらく可能性がある。とりわけ脆弱な立場にある人々が制度や政策にアクセスしたとき、その影響をどう受けるかは大きな課題であり、制度が社会的格差を生むことがあってはならない。時代の変化によって、制度や政策が形成された当時と現状が異なることも当然ありうるため、その影響を注視していく必要がある。

制度や政策が公平であると信じられれば、人々は受け入れやすくなるが、不平等や不公正があれば社会の信頼感は低下し、制度への反発を招くこともある。このように、社会の人々と制度・政策は密接に結びついており、両者の関係を理解することは、よりよい社会を築くうえで不可欠である。

では、看護学生は、なぜ看護政策を学ぶ必要があるのだろうか。看護政策を理解することで、看護職（看護師、助産師、保健師、准看護師）がわが国の社会インフラとしてどのように機能しているのか、また医療提供体制の一部として患者やコミュニティにどのようなポジティブな影響を与えうるのかを学ぶことができる。つまり、専門性の深化につながっていく。

さらに、看護政策はエビデンスに基づいた看護実践を促進するため、政策の背景や目的を理解することで、よりよい医療提供が可能になる。

看護職には患者のケアだけでなく、医療システムや政策の改善にも寄与することが求められている。そのため、看護学生が政策に関する知識をもつことは、将来リーダーシップを発揮する機会を増やすだけでなく、政策について学ぶ環境そのものがリーダーシップを育成する場となることが期待できる。

また、看護政策は患者の権利や倫理的問題にも深くかかわっているため、看護学生がこれを学ぶことで、患者や地域に暮らす人々の権利を擁護し、適切かつ倫理的なケアを提供できるようになる。医療環境は常に変化し、新しい政策や法令が導入されるため、看護学生が政策を学ぶことは変化に対して柔軟に対応する力を養うことにもつながる。

看護職は社会の健康に対して責任を負っている。看護政策を学ぶことで、学生は社会的な問題や健康格差への理解を深め、それに対処するための知識やスキルを得る。そして、看護職としての社会的責任を深く理解することが可能となっていく。

これらの理由から、看護学生が看護政策を学ぶことは将来のキャリアだけでなく、看護の質向上や、地域社会・患者支援にも大いに役立つといえるだろう。

これまで看護政策は看護管理の科目のなかで学ぶことが多かった。しかし少子超高齢社会を迎え、医療提供体制の転換や看護職の確保がますます厳しくなる一方で、患者のニーズは多様化・複雑化している。このような外部環境の変化は、看護職にどのような影響を及ぼすだろうか。看護職に期待される役割を果たすためには、制度・政策の理解が欠かせない。

こうしたマクロとミクロ両面の背景をふまえ、本書の必要性が説かれ、本書が完成した。どの章から読んでも理解可能であり、学生同士、あるいは教員や臨床の看護職とともに、「こうあったらいいのに」と思うけれど「そうっていない」とき、そして看護職として働く環境をもっとよくしたいと思ったときにも、本書を開いて議論していただきたい。きっと役に立つだろう。

2025年9月
編者を代表して
福井 トシ子